

# 抗がん剤投与確認書

大腸がんレジメン：XELIRI(ゼローダ/カンプト)+アバスチン・イメド

患者名： \_\_\_\_\_ 年齢： \_\_\_\_\_ 歳 (ID: \_\_\_\_\_ ) レジメン確認薬剤師 \_\_\_\_\_ 印

体表面積： \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> 体重： \_\_\_\_\_ kg 血清 Cr： \_\_\_\_\_ mg/dL CLcr： \_\_\_\_\_ mL/min

対象疾患：大腸がん（再発・進行）

薬剤名	day1 . . . . . day15	D15-21
CPT-11(カンプト)150 mg/m <sup>2</sup>	↓	休薬
アバスチン 7.5 mg/kg	↓	休薬
ゼローダ 2000 mg/m <sup>2</sup> /日、	D1 夕 ←————→ D15 朝	休薬

<減量・休薬基準>  
 好中球減少（1500/m<sup>3</sup>未満）、白血球 3000/m<sup>3</sup>未満、血小板 10 万未満  
 AST・ALT(200IU/l 以上)、Scr(1.5 mg/dl 以上)Grade2 以上の下痢、口内炎、HFS が Grade2 以上、それ以外の Grade3 以上の非血液毒性。  
 薬物有害反応と考えられる非血液毒性（食欲低下と下痢を除く）が Grade3 以上、水溶性下痢、感染を疑わせる 38℃以上の発熱

<中止基準>  
 腫瘍の増大、Grade4 のショックおよびアナフィラキシー様症状出現時。好中球減少(grade 4),血小板減少(grade 4)

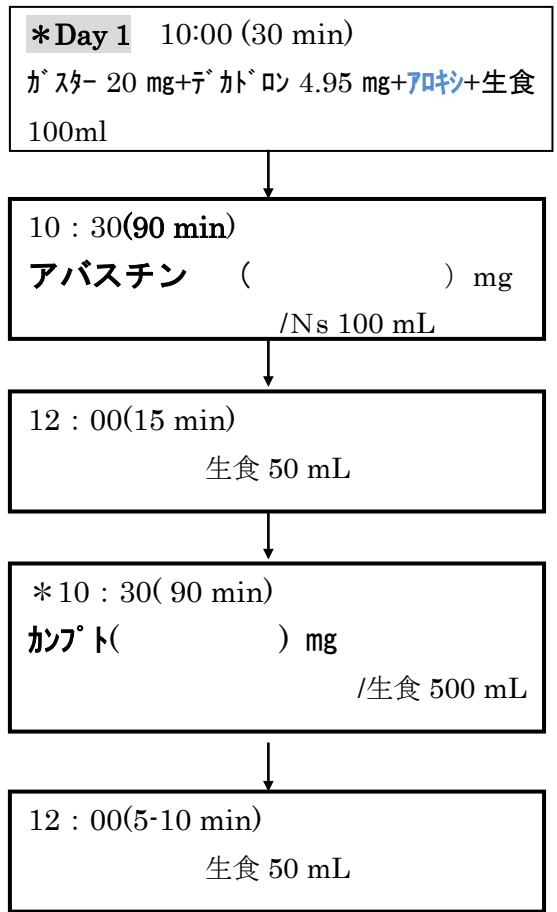
<ゼローダ>  
 1 回 1000 mg/m<sup>2</sup>、1 日 2 回（day1 夕食後～day15 朝食後）  
 <C 法>1 日 2 回、14 日間服用、1 週間休薬  
 1.36 m<sup>2</sup>未満：1200mg/回  
 1.36－1.66 m<sup>2</sup>未満：1500mg/回  
 1.66－1.96 m<sup>2</sup>未満：1800mg/回  
 1.96 m<sup>2</sup>以上：2100mg/回

**\*65 歳以上：1600 mg/m<sup>2</sup>/day**

<CPT-11>  
 150 mg/m<sup>2</sup>→120 mg/m<sup>2</sup>（2014 年 2 月改訂）

<アバスチン>  
 2 回目以降 30 min で投与  
 \*テカトロン 8 mg→6 mg→4.95 mg（2010 年 6 月 1 日改訂）  
 （2010.8 改訂）

\*イメンド（125－80－80）  
 カイトリルハック→アロキシ 0.75mg（2010/11/18）



<主な副作用と対策>

①骨髄抑制②嘔気・嘔吐③下痢④HFS（皮膚毒性）⑤口内炎⑥高血圧

<対策>

①G-CSF②カイトリル（屯用で対応）、ノバミン、プリンペラン、アタ P③輸液・ロペミン内服（カプト適正使用ガイドに準ずる）④保湿クリーム、ステロイド軟膏、VB6 製剤⑤アズノール含嗽液⑥降圧薬（ARB、ACE 阻害薬）

① NEUT 減少：休薬

② 下痢：休薬

③ HFS：減量・休薬

④ 静脈血栓・食道穿孔：中止

⑤ 高血圧：休薬

⑥ 蛋白尿：休薬

下痢：下痢があらわれ（73%注1）、60%注2）、脱水症状をきたすことがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には早期に止瀉剤などによる治療を考慮すること。重度の下痢が認められた場合には、電解質又は輸液投与及び本剤の投与中止や休薬を行うなど適切な処置を行うこと。

平成 年 月 日

指示医サイン \_\_\_\_\_

指導医サイン \_\_\_\_\_

看護師サイン \_\_\_\_\_

- \* 投与量を確認するもので、指示書では有りません。
- \* 投与量を変更する場合は赤字で訂正、追加して下さい。

自治医科大学附属さいたま医療センター  
がん化学療法委員会、医療安全管理委員会

2008.1 月作成  
2009.7 月改訂  
2010.10 月改訂  
2011.1 月改訂  
2014 年 2 月改訂